南情第108號

P-1-d

新嘉坡情報

十二年十一月二二日

海峽殖民地政府當局の抗日取締

「抗日歌及抗日教科書の禁止」

日支事變發生當初に於て、海峽殖民地政府學務局は、日支各學校に對し通告を送達し、事變に關する作文を禁じ、英領殖民地内に於ては如何なる民族も對立抗爭するが如き言動を取締りつゝあつたが、最近華僑各學校に抗日歌の盛んに唄はれるに鑑み、學務局は抗日歌の絶對禁止を命じ、更らに支那本國に於て發行される抗日教科書が海外華僑學校にも採用されてゐる結果、英領殖民地に平和に訓育さるべき第二世に對日感情を培養し、その影響の甚大なるものあるにより、領内華僑小、中學校採用の教科書並に一般書籍を調査し、總計百二十六種の支那本國發行の教科書を禁止する旨十一月十九日付官報をもつて公布した。

東亞經濟調査局　弘報課

禁止教科書中特に幼き童心に大きな影響を與へつゝあつたものは、中華書局出版の「國恥史綱要」商務印書館發行の「三民主義教育新歌集」、上海書局出版の「國恥十二ケ月」等であつた。

禁止教科書を列記すれば

一、新中華教科書（上海中華書局出版）高級中學本國史後編下卷

一、新課程標準適用課本（上海中華書局出版）、高級中學用外國地理上卷、公民第一第二及第三卷、外國史下卷、本國史下卷、本國地理下卷、本國史參考書第三卷、外國史參考書第二卷、簡易師範用歷史第二卷、高級小學用音樂課用第四卷、初級小學用春季始業用國語讀本第四、五、六、七卷、春季始業用常識讀本第五、六及八卷、

一、修正課程標準適用課本（上海中華書局出版）、初級中學用公民第二卷、本國歷史第三卷、高級小學用新編公民課本第一卷、

一、復學教科書（上海商務印書館出版）

高級中國史下卷、初級中學用公民教育指導書第一卷、體育教本第一、三卷、高級小學春季始業用國語課本第一及第四卷、初級用第五、六、七、八卷、社會課本第六、七、八卷、常識課本第二、五、六、七、八卷。

一、上海中華書局出版書籍

美的歌曲六卷、中華現代文學選三卷、一年短期小學國語讀本第三、四卷、暑期課本甲種國語社會算術第四、五卷、國恥史綱要、公民、黨義。

一、上海商務印書館出版書籍、

小學教師、老少通千字課、高中本國地理上卷、高中外國地理、上海市民衆識字讀本第一、二卷、三民主義新歌樂

一、上海世界書局出版書籍

小學音樂教本第一、二卷、新式學生尺牘下卷、現代小學生尺牘下卷、人文地理初A、B、C、中國文、高級市民常識課本第二、三、

卷、人文地理的A、B、C、中國文、高級市民常識課本第二、三卷、
小學音樂教本第一、二卷、新式學生尺牘下卷、現代小學生尺牘下
一、上海世界書局出版書籍
滬市民常識字讀本第一、二卷、三民主義新歌集
小學教師、老少通千字課、高中本國地理上卷、高中外國地理、上
一、上海商務印書館出版書籍、
叢書。
四卷、暑期課本中種國語、社會、算術第四、五卷、國形史綱要、公民、
美的歌曲六卷、中華現代文學選三卷、一年四期小學國語讀本第三、
一、上海中華書局出版書籍
六、七、八卷。
五、六、七、八卷、社會課本第六、七、八卷、常識課本第二、五、
一、三卷、高級小學春季始業用國語課本第一及第四卷、初級用第
高級中國史下卷、初級中學用公民教育指導書第一卷、體育教本第

四卷、初級市民常識課本第三卷、
一、上海廣益書局出版
初級小學寫信指導法
一、上海兒童書局出版
兒童作文講話、兒童唱歌集第一、二、三卷、兒童作文講座、兒童
民故公事、我自己的文藝、兒童文選第一、二、三、四、五卷、新
生活唱歌集、非常國語選、十二ヶ月的國恥
一、上海大衆書局出版
大衆音樂課本、公民訓練歌曲、
其他の書籍
高小國語讀本、新時代兒童書信、簡要世界地理圖說、簡要中國地
理圖說、外國新地圖、中國新地圖、中外名歌百曲、小學作文讀本、
小學模範作文、新標準初中公民、小學記敘文範、兒童文範、給小
明友的信、初級小學用國語新課本、短期小學課本、兒童模範文選、

世界新地圖、模範作文讀本、模範作文第二、三集、寫信指導法、
高級兒童白話信、白話新書信、國語（小學生外學指導）
社會（仝上）、公民（仝上）、小學自修、複習指導國語、同社會。

以上

（抗日歌の中には爆擊出雲艦」もあつた）

P-1-2

新嘉坡情報　　　十二年十一月二十七日

馬來亞聯邦州獻金の使途に關して

「ロンドン、イブニング・デスパッチ紙の所論」

英國空軍の爲め二ケ中隊（馬來亞防備）の飛行機を購入すべく馬來亞聯邦州より二百五十萬弗が獻金されたが、（既報）こんな金があるなら、この金で馬來亞開發の爲めにもつと有効に使用出來なかつたのであらうか、シンガポールよりの報導によると馬來亞聯邦州のサルタン及人民は二百五十萬弗（三十萬磅、邦貨五百萬圓）を馬來亞に駐屯すべき二ケ飛行中隊用として英帝國政府に獻金せるもいふことであるが、馬來亞諸州人民の獻金は全く感謝に堪えないが、然し金を防備用に消費せずに土民の爲めに利益ある結果を齎すやうな開發に、何故使用されなかつたかと疑ふ。彼等は英國や其他歐州各國の人民の様に武力の勝利によつて生起した旋風の中に捲きこま

p-1-d

れてゐるのである」。

「英國は日支事變により、シンガポールの防備は空軍充實の急務を覺り、馬來亞各州のサルタンを誘導したものとみられる、然も強力斷乎たる日本軍の進出に、英本國の與論は日本との摩擦を避く可しと云ふにあると思ふ」

（鄕）

p-1-d

南情第114號

新嘉坡情報　十三、一、五、

支那人抗日團の元旦示威行進

「戰勝と「トソ」」の元日、日本のラヂオは新嘉坡抗日支那人のデモ行進を放送された、この行進は既に十二月中旬より不良抗日分子の暗躍があり、可成的擴汎に一大デモと、日本人使用の男女支那人を罷業させ、人力車夫をも罷業に導かんと強迫しつゝあつたが、人力車夫公會代表は支那總領事館及總商會に對し罷業後何人によつて衣食が供給されるかとの問ひに領事館も總商會も一切取り合はなかつた、而してこれらの罷業は行はれなかつた。

失業工人、不良學生等三百餘が「反對日本ファシスト軍閥」の大小百餘の長旗を押立てゝ牛車水の支那人街より行進を開始し日本人街とも謂ふミツドル路に來り、日本人一同拜賀式眞中の日本人小學校（クエン街）前に到り大いに抗日デモを行ふ予定であつたが、ミ

ツドル路に入ると同時に車輛局建物内に待期中の二百の警官隊に阻止され、旗は全部押收され、首脳者三名を檢束して解散させた。

元日の日本人街一時は可成の騷擾であつた、解散されたデモ隊は二十人、三十人と貨物自動車に分乘して支那國旗を立て、抗日歌を高唱してデモを續け、夜に入り再び隊列を整ひ行進を開始したるも警備隊に追ひ散らされた。

二日も幾分餘波が殘されてゐたが三日四日と火は鎭まつた、一般華僑は舊正月を眼前にして四苦八苦の態、執拗なる抗日不良分子を惡くみ恐れて商賣が全く不能に在り、當地警察の無能は現對支政策の現はれである、不良分子を一擧に百人も檢擧すれば、街頭に彼等の影は沒すること必然だ、なれども英國の對支態度はそれすらなし得ない、その爲めに之等不良分子に警官が毆打され自からの警察權を侮辱されるが如き醜態を見せることになる。

この外抗日不良子は半島にその手を述べ、バトバハの石原鑛山、

南清 114號

ドングンの日鑛々山、各日本人ゴム園等の勞働者を罷業さす可く煽動しつゝある、これは市内の日本人使用に對しても同樣の手段をとり、若し罷業しないならば月給の二割を救國基金に寄附しろ（これは俺達によこせと云ふのだ）、月給が足りなければ値上を要求しろと共産黨員に指導されて動いてゐることは嚴然たる事實だ、當地官憲はそれを取締れない。

「別紙のビラは元日に散布したものであるが、台灣人が書いたものと思ふ、當地在留の台灣人中には強迫されて恐れ、抗日分子に對し心にも無い「オセジ」を使つてゐる者がある、三十名から居台灣人ダンサーも強迫されて職場を失へかけたが、福建省に復籍の形式をとつた者さへある。」

日本僑民ニ告グ!・

親愛ナル日本僑民ヨ!・

日本ファシスト軍閥政府ハ其ノ飼主タル資本階級ニ媚ンガ為メ所謂大陸政策ヲ強行シツヽシテ來タノデアル、而シテ凡ユル欺瞞ト高壓ヲ貴貧苦大衆ニ加ヘシツヽシテ來タノデアル。奴等ハ貴貧苦大衆ヲ飢寒線下ノ最低點ニ掠奪シ去ツタ上、無慘ニモ砲火ノ下ヘト驅リ出シテ居ル、ソシテ「無聲ノ凱旋」ト云フ欺瞞ガ下ニ彼等ヲバ死ノ道ヘト押シ立テ、居ル。見ヨ!・船毎ノ無干ノ骨灰ト其ノ家族ノ愁嘆悽慘ノ情景ヲ!・

日本ファシスト軍閥政府ハ「日清」・「日露」・「歐洲大戰」ニ大勝利ヲ獲チ得タ、ダガ日本貧苦大衆ハ同時ニ絶大戰費ノ負担ト無數ノ生命ヲ奪ハレ、永遠ノ嘆トシテ世ニ殘ツタ以外何一ツ得テ居ナカツタ。

中華民國政府ハ四億五千萬ノ國民ノ欲求ガ下ニ日本ファシスト軍閥政府ニ對シテ勇敢ニ抗戰シ始メタ。國家民族ノ獨立解放・東亞平和・世界平和ニ奮ヒ立テ、抗戰シ始メタ。悪政・横暴・迫害・掠奪ノ鐵蹄下ニ喘ヘテ居タ八千萬日本民衆ニモ永年ノ積憤ヲ雪グ時機ガ來タノデアル、我等ハ相携ヘテ槍口ヲ敵人—日本ファシスト軍閥政府ニ向ケル以外ニ猶豫モ觀望モ要ラナイモノデアル。

中華民族解放戰爭ノ成功ハ八千萬日本民衆ノ成功デアル。何故ナレバ我等ノ共同敵人ハ日本ファシスト軍閥政府ニアルノデアル。

日本ノ民衆ヨ！欺瞞・陶醉ノ夢カラ醒メヨ！

而シテ時代ノ重責ヲ勇敢ニ負フテ奮ヒ立テヨ！

徵兵召集ニ反對セロ！　ファシスト戰爭ノ軍資金タル一切ノ租税ヲ根本的ニ拒絶セロ！殺人機械ノ原料ヲ破壊セロ！　日本ファシスト掠奪戰爭ニ抗爭セロ！　日本ノ被壓迫階級ハ永遠ニ我等ト相提携スベキモノダ！親愛ナル日本民衆カラダ！　ソシテ日本

ファシスト軍閥ヲ打倒セロ！

中華民族解放先鋒隊

一九三八年元旦

p-1-d

新嘉坡情報

再び新嘉坡攻防大演習　一月五日

昨年二月一日より四日間陸海空軍の新嘉坡島攻防演習を行つて、フォート・カンニング司令部（新嘉坡軍司令部）は新嘉坡の守り鐵壁たりと發表して納まつてゐたが、日支事變の發生以來英國は自からの行爲を反省することなく、日本の反英態度に極度の焦慮をなし往昔誇りとしてゐた彼等の大英帝國の襟度は地を拂つて無い。

風聲鶴涙下の新嘉坡は再び來二月下旬陸海空軍の攻防大演習を行ふことに決定した。陸軍部隊一萬、新嘉坡空軍五十機、英國支那艦隊の艦艇二十五隻（これは現香港に在るもの、シ軍港には軍艦はない、僅か沿岸警備艇あるのみ）空軍は印度よりリサブル第十一飛行中隊、コハツト第二十七飛行中隊、イラーク國よりシヤイパン第八十四飛行中隊が參加する。右は九機編成の合計二十七機と更らに香港に在る航空母艦イーグル號の艦載機も參加する筈、

今回は特に注目す可きは世界にその強力を誇る、新嘉坡港口を扼するブラカン・マテ島と、軍港口の守りなるチャンギー岬に装備されてある十五吋及十八吋砲のテストが行はれることである。

新嘉坡島攻防演習は一月三十一日より二月五日迄六日間擧行する旨一月五日午後發表された。

主要參加部隊たるシンガポール駐屯王室砲兵隊の陣容は、

隊長ロウ大佐指揮下の重砲隊

第七重砲大隊

大隊本部をブラカン・マテに置き指揮官マックファーー中佐

所屬重砲臺

第十一中隊　重砲臺セリンガバタム

第五中隊　重砲臺シンガポール

第八中隊　重砲臺ブラカン・マテ

第九重砲大隊

大隊本部をチャンギーに置き指揮官ウエルシ中佐

第七中隊
第二十二中隊 } 重砲臺チャンギー

右の外軍港々口を扼するチャンギーには第三高射砲大隊が配置されてある。

所屬中隊

第十一高射砲中隊

第六高射砲中隊

尚參加海軍部隊としてマルタ根據地より分遣せられたる（第二掃海戰隊所屬の掃海艇九隻がある（これはシンガポール軍港の海の守りである）

「十八吋砲の存在は疑問とされてゐる」

セレタ根據地に於ける乾ドック竣工式

長き歳月と巨費を投じてその工事を急ぎつゝあつた、シンガポール軍港內乾ドックは愈々竣工し、シンガポール攻防演習終了後の二月十一日午後五時トーマース總督司會の下に竣工落成式が擧行される。

英本國より海軍省代表として、J・J・ルウエリン大佐參列が決定され、東印度艦隊司令長官サー・エー・アール・エム・ラムゼイ少將は同艦隊の一部とローヤル印度海軍の警備艦三隻を揮へて參列、英國支那艦隊はリツトル提督病氣のため、クラツプ少將司令官代理として參列、後任支那艦隊司令長官として赴任の途上に在るサー・パーシー・ノーブル少將が一月二十八日シンガポール寄港の豫定なる、或は同少將も參列するかともみられる。

右の外濠洲、新西蘭、香港等よりも各代表の參列がある筈、而してこの竣工落成式は一般に公開されない。

落成式参加と演習を目標に馬來亞巡航の途にある英國軍艦は、

巡洋艦ノーフオーク號　一〇、〇〇〇噸

〃　エメラルド號　八、〇〇〇噸

右は一月十九日ビクトリア・ポイン、一月二十一日彼南、

一月二十七日シンガポール着

修理艦メドウエー號

驅逐艦ウエスコツト號

潜水艦九隻

一月十日より十七日迄ラブアン訪問

潜水艦プロチウス號

〃　オルヒユース號

〃　パントラ號

一月十五日より二十二日迄ゼセルトン訪問

潜水艦レヂエント號

一月二十一日より二十七日迄ポート・スイテンハム訪問後右
シンガポール集結
演習參加の支那艦隊は
第五巡洋艦隊（六隻）
第八驅逐戰隊（九隻）
第四潜水戰隊（母艦一隻潜水艦十五隻）
航空母艦ハームス號
水雷敷設艦アドヴエンチユア號
外にスループ艇五隻

以上

P-1-d

南情第117號

新嘉坡情報　　　　　　　一月六日

孫科、劉文島

訪歐ソの途に在る孫科は一月五日午後十一時佛國郵船アトス號にて寄港、高總領事以下千餘の華僑に迎へられて上陸、九日迄滯在、九日和蘭機にて歐洲に飛びソ聯に向ふ豫定、大毎、同盟の通信員が押しかけたが追ひ拂らはれた、外字紙記者との會見で

駐ソ大使としてモスコー赴任を否定、

ソ聯に滯在する豫定だが、歐洲に着いてからでないと何國を訪問するかは未定だ、

ソ聯は飛行機其他の武器を送り支那を援助してゐるが、目下建設を急ぎつゝある四川省及新疆省を通じソ聯と結ぶ自動車道路完成された上更らに積極的援助がなされる筈、

ドイツも大量の武器を送り支那に支好態度を持してゐると。

東亞經濟調査局　弘報課

日本は香港に侵入せんとしてゐる、英國がこれを默認すれば、シンガポールも同様の境地に陥るであらう。

支那の長期抗戰は香港を通ずる軍器の補給が今後繼續されるや否にある、日本はこの輸送線廣九鐵道を切斷せんとしてゐる。

支那はこの路線に於ける英國の援助が唯一の賴みである。

英帝國も亦支那がこの路線を死守すると等しく、香港の孤立は默認されないであらう。

支那の軍器の補充はソ聯より飛行機による少量以外に香港經由が全的の賴みである。

英國が廣九鐵道の防禦を援助するならば支那は長期抗戰をなし得るのだ。

支那が最近P・O汽船によつて二百萬磅の銀塊を積出したことに關しては

戰時中ロンドンとニューヨークに置き替へたに過ぎない。

「吾等は正氣で聽かれないが、こんな話でも支那に對する認識の無い白人共は一途に信ずるから恐ろしい」

同五日夜深更入港せるイタリー汽船コンデ・ビアンカマノ號で駐伊大使劉文島が引揚げ歸國の途上寄港した、

「國難に赴くために歸國するものである、華僑諸君は抗戰が長期に亘ること、現下の戰況不利であるが最後の勝利は我に必至であることを牢記されたい、歐洲の各國は等しく支那に同情を寄せてゐる、尚吾人はイタリーの對支親善を信頼するものである」

と、

「孫科歡迎の大衆は抗日歌を高唱してデモ行進を開始せんとして警察隊に解散させられた」、

p-1-d

南情第122號

新嘉坡情報

十三、一、八

新嘉坡義勇隊海軍司令任命

新嘉坡義勇海軍豫備隊司令としてビクター・エ・ワード大尉が任命された、近くロンドン出發赴任する筈、ワード大尉は潜水艦乘りにて歐洲大戰の生殘者である。

東亞經濟調査局 弘報課

p-1-d

新嘉坡情報

十三、一、十四

馬來亞人口統計

「一九三七年七月三十日現在」

馬來亞に於ける人口の消長は、その出生、死亡率によるよりも、護謨及錫の好況如何に在る、それによる勞働者の増減が大きいからである。一九三六年七月三十日現在の總人口は四百六十九萬四千百六十六人であつた、一九三七年七月三十日現在四百七十八萬七百九十人であつた。昨年は七月以降に於いて厦門、汕頭方面よりの支那避難民の渡航者多く華僑は相當な増加を示してる。

海峽殖民地

新嘉坡	六二一、二四二人
ピナン	二一〇、四〇五人
ウエスレース州	一五〇、四九二人

マラッカ州	二〇六、一一五人
ヂンヂン	七、九二三人
クリスマス島	一、二三七人
ココノ島	一、一四二人
計	一、一九八、五五七人

馬來聯邦州

ペラ州	八四七、二一五人
セランゴール州	五八九、六七一人
ネグリスミラン州	二五五、〇〇〇人
パハン州	一九五、二六四人
計	一、八八七、一五〇人

馬來非聯邦州

ジョホール州	五六一、七〇四人
ケダ州	四六九、二一七人

ケランタン州	三八四、三六九人
ツレンガヌ州	一九三、一二九人
ペルリス州	五二、六三二人
ブルネイ州	三四、〇三一人
計	一、六九五、〇八三人

總計

海峽殖民地	一、一九八、五五七人
馬來亞聯邦州	一、八八七、一五〇人
馬來亞非聯邦州	一、六九五、〇八三人
合計	四、七八〇、七九〇人

各人種別

馬來亞人	二、一三七、七八〇人
混血人(ユーレシヤン人)	一七、五五五人

ケランタン州	三八四、三六九人
ツレンガヌ州	一九三、一二九人
ペルリス州	五二、六三二人
ブルネイ州	三四、〇三一人
計	一、六九五、〇八三人

總計

海峡殖民地	一、一九八、五五七人
馬来聯邦州	一、八八七、一五〇人
馬来亜非聯邦州	一、六九五、〇八三人
合計	四、七八〇、七九〇人

各人種別

馬来亜人	二、一三七、七八〇人
混血人（ユーラシアン）	一七、五五五人

支那人	一、八八七八七四人
印度人	六五七七二〇人
歐洲各國人	二四、三三四人
其他各國人	五五、五一八人
合計	四、七八〇、七九〇人

p-1-d

新嘉坡情報　十三、一、十七

第二次新嘉坡攻防演習

第　二　報

陸、海、空三軍指揮官任命さる、

陸軍指揮官

　新嘉坡駐屯軍司令官　ドービー少將

海軍指揮官

　東印度艦隊司令官サー・アレキザンダー・ラムゼイ中將

「海軍は東印度艦隊とローヤル印度艦隊の聯合」

空軍指揮官

　新嘉坡皇國空軍司令官　テッダー中將

參加空軍勢力は百〇四機

既に到着せる飛行部隊は

第六十飛行中隊（印度コラット）　十二機

第三十九飛行中隊（印度リサルブル）　十二機

右二十四機爆撃機

尙イラークよりの參加部隊は

第八十四飛行中隊（シャイバ）　十二機

第七十飛行中隊（ヒナヂチ）　八機（輸送爆撃機）

第二百〇三飛行中隊（バスラ）　四隻

「右四隻は新嘉坡第三飛行中隊にして飛行艇なり」

新嘉坡皇國飛行隊（セレタ）　三十六機

航空母艦イーグル號（ホンコン）　二十機

以上

P-1-d

新嘉坡情報 十三、一、十八

全馬來亞華僑の義款

昨年日支事變發生以來陳嘉庚（排日巨頭）を主任として募集せる、全馬來亞に於ける華僑の祖國難民救濟義金は昨年十二月末迄に支那貨一千〇三十萬二千二百九十二元六仙（新嘉坡貨約五百十萬弗餘）

馬來亞各州內譯

州名	金額
セランゴール州	百八十三萬九千六百六十三元四十六仙
新嘉坡	三百〇六千三百四十七元七十二仙
ペラ州	百五十五萬七千五百四十五元八十七仙
ピナン	百二十九萬六千百〇四元四十六仙
ジヨホール州	九十九萬三千五百六十四元
ネグリスミラン州	四十五萬元

マラツカ	四十三萬一千五百五十五元二十三仙
パハン州	三十一萬元
ケダ州	二十三萬六千百五十元四十五仙
ケランタン州	八十八萬元
トレンガヌ州	六萬五千三百六十元七十八仙
ペルリス州	二萬八千元
合計	一千〇三十萬二千二百九十二元〇六仙

尚右の外に救國公債約支那貨三百萬元、以上が華僑の戰禍祖國への總意であつた。

別に若干の醫療藥品及不用衣類等も送られた。

南情第128號

p-1-d

新嘉坡情報

十三、一、二五

新嘉坡軍港完成式に米艦の參列

一月三十一日より二月五日に至る第二次新嘉坡島攻防演習終了後に擧行される、新嘉坡海軍根據地完成式に米國はトレントン號及ミルワーiク號の二巡洋艦を參列さすことに決定してる、同二艦は式後米國に歸還せずに、海上に遊弋するものと傳へられる。

右に關して英米の新聞は種々の報導を放送するが、こゝに略す。

東亞經濟調査局

弘報課

p-1-d

新嘉坡軍港出入取締令　十三、一、十

新嘉坡軍港出入取締令

重要施設、擴張、乾ドック等その完成に日夜工事を急ぎつゝある新嘉坡セレタ海軍根據地は今や英國の極東策戰基地として最も重大な意義が招來されんとしつゝある時、軍機秘密保護のため根據地視察その他一切の出入に對し、禁止的取締令が近く實施されることに決定した。

右取締令によれば、根據地内總ての從業員は身分證明書を必要とし、特にアジア人に對しては本人の寫眞及指紋を添付せる登錄カードを携帶させ出入に際して呈示せしむることゝした、出入の御用商並に契約勞働者に對してもその請負期間中有効のパスを發給し、尚一般視察並に見物人に對しては英國籍民にして旅券所持者に限りてパスを發給し、然も根據地内に於いては一切の見物を自動車にてな

すことを要し、構内に入る同時に自動車内より一歩と雖も歩行を禁止される、且つその通過路も主要道路に限られる。

右バスは月、金、土（毎週）の三日シンガポールの海軍監督事務所（ユニオン・ビルディング内）に於いて月、金、の兩日は午前九時より午後三時迄、土曜日は午前九時より同十一時迄發給事務を取扱ふ、その他の取締左の如きものがある。

一、商用の爲めの不意の出入或は歐洲人宿舍への訪問者に對しては豫めその到着の時間及自動車番號を通知し、出門迄嚴重なる監視を受ける。

一、商人は登錄證及身分證明書並に商人許可證を所持する者のみ出入を許可する。

一、私用自動車、タキシー及請負人貨物自動車、自動車運轉手並に自動車共に許可證を要し、搭乘車者は身分證明書を要す。

一、海上よりの出入に對しては根據地所屬船又は特に許可證を有す

一、海上よりの出入に對しては根據地所屬船艇又は特に許可證を有す
自動車共に許可證を要し、搭乘者は身分證明書を要す。
一、私用自動車、タキシー及高賃人貨物自動車、自動車運轉手並に
人を許可す。
一、商人は登錄證及身分證明書並に商人許可證を所持する者のみ出
を受ける。
豫め其の到着の時間及自動車番號を通知し、出門近傍車なる證明
一、緊急用の爲めの不意の出入或は職員宿舍への訪問者に對しては
拔め、其の他の取締方の細きものがある。
時より午後三時迄、土曜日は午前九時より同十一時迄發給事務を取
所（ユニオン・ビルデイング內）に於て月、金、の兩日は午前九
右ハスは月、金、土（毎週）の三日ジツカホールの辦事務
止され、且つ其の通過路も主要道路に限られる。
すること を要し、構內に入る同時に自動車內より一歩と雖も歩行を禁

るものヽ外根據地內碇泊の艦船に近づき、或は構內陸地に乗り上ぐることを禁ず。

以上

2-1-d

南情第132號

新嘉坡情報

十三、一、八

佛蘭西極東艦隊の補强

佛蘭西大西洋艦隊第四巡洋戰隊所屬の新鉛巡洋艦ジョルジ・レーグ、モンカーム號の二艦は司令官ゴドフレイ少將に率ひられて一月七日午前九時、佛領印度支那に向ふ途上シンガポールに寄港した。同行のグローアル號はコロンボ碇泊、一日遅れ一月九日シンガポール入港、全十日三艦サイゴンに向け發航の筈、右三艦の東洋廻航によつて、佛蘭西極東海軍の勢力は潜水艦、砲艦各十二隻、七千噸以上巡洋艦五隻となる。

（英國の主力艦極東派遣中止と同時にフランス艦隊の東洋廻航英佛極東海軍の共同作戰計畫）

東亞經濟調査局　弘報課

p-1-d

新嘉坡情報　十三、一、十

排日デモ行進

昨年十二月以來計畫され一月一日を期して擴範圍に渉る排日運動を起さんとした。共産系不良支那人一味は之日警官隊に阻止されて、目的を遂行出來なかつた不滿を一月五日夜孫科の寄港を機會として再び大行進デモを計畫したがこれも警戒嚴にして果たさず一月九日午前九時訪ソの途に就て孫科を新嘉坡空港に見送り三度デモ行進を開始して警察隊と衝突し、多數の檢束者を出した。

同日午後六時頃より檢束者の留置されて居る中央警察署附近に支那人集合し來り、刻々其數を増し、三百、五百、千となり、遂に午後八時を過ぐる頃、檢束者の奪囘を叫び警察構内に押し入り、アツシスタント・ポリスコムミシヨナーのホーブ・フオークナー氏、チーフ・インスペクターのヒギンス氏以下白人警部に率ひられた警察

隊との亂闘となり、群集は狂暴に反抗を續け空瓶、煉瓦等を投げ、一方檢束者八十七名は道路に面した留置所内にて抗日歌を高唱し警察を包圍せる群集と共に氣勢をあげ、場所が支那街の中央なるため時々に野次馬も加はり群集は數を增し、九時頃は既に二千以上に達した。

通行の電車もバスも投石の雨を浴び多數の負傷者を出す有樣にて鎭壓困難となり、ヒギンス氏はチーフ、ポリス、オフイサーに至急來援を求め、直ちにチーフ、ポリス、オフイサーのオンラエツト氏はヒヂビジヨンの警官隊を引卒して到着一時漸く群集を驅逐したが再び警察を包圍襲擊し來り投石暴行を續けたが午前一時頃群集が散つて鎭壓された。双方共多數の負傷者を出した。この一月九日は印度に於いてネール一派の支那デーが行はれる日であつた〻め、多數の無智な印度教徒が印度獨立旗を押し立て〻、支那人抗日デモに參加した。全夜は支那街一帶に涉り狂氣の如き彼等は何等の見境へもな

く棍棒、空瓶、石等を以て通行を防害し、破壊し、通行人に暴行した電車にて通行中の日本人三名も引き下されて歐打され重傷を負ふた。

右事件に對して支那總領事高凌百は

「騷擾は全く熱狂的愛國心の發露である、當方が接取した情報によると煽動者によつて惹起されたものであるから驚くには當らない、その動機は當地政府と華僑との間に隔執を生ぜしめようとするにあつたらしいが、全華僑は英國政府の友誼を多としてゐるところである、滿足な解決のため政府當局と協力したいと思ふ。」

「英國は一新嘉坡當局は何故中央警察を包圍襲撃されるが如きに立ち至つたか、幾度か警官が之等不良抗日分子に歐打され英國の警察權を侮辱されても取締まれなかつた彈壓出來なかつた、遂にコミンテルンに指導される抗日分子に乘じられたのだ。

既に日支事變下に於ける英國の態度が明かに示すが如く、馬來亞

に於いても百八十萬華僑を無視することの出來ない英國の惱みは、日本と在留日本人に對する抗日分子の盲動を「實際」は表面取締る可く見せかけて、見て見ない振りをした來た結果に他ならないのだ新嘉坡に於いては暸かに英國人は對日ボイコットを行つてゐるのだ、遂に彼等は自からの警察權を侮辱されるのだ、次に來る可きものはなにか！

屬領民族の心が英國を離れないと誰れが保證するか、自からの墓穴を掘る者は英國だ、

されど彼等は世界一の狡猾な人種だ、油斷は出來ない。」

中央警察を襲撃されて狼狽した當局は一部印度人の參加を重大視し一月九日夜深更（事變の當夜）總督官邸にトーマス總督オンラート總警視ヂョーダン華民政務司參集對策協議の結果次の如き政府コムミュニケを發表、一方警視總監よりも布告を發した。

政府コムミユニケ

殖民地政府はシンガポール警視總監により文書による許可を與へられざる集會並に行列を行ふことに對し輕罪法第二十四章第五條第二項規定下に禁止されてゐることに注意を促すものである。

政府は殖民地内の平和並治安維持に鑑み、總ての非合法的集會及無許可行列の防止、並必要に應じこれが驅逐に適當の措置を執るべく警察當局に命令せることを全市民に警告するものなり。

警視總監布告

シンガポール警視總監は總督の認可を得て輕罪法第二十四章第五條第二項規定の下に街路上に於ける行列並に集會を禁ずるものなり。但し結婚、葬儀及宗教的儀式は例外とす」。

「今頃これを出すのが既に本末を誤つて居る、排日は差支へなしと默認してゐたことを暴露したと同じだ、自分の袖に火がつきそう

になつた（印度人が盲動すれば英國の食糧庫印度に火がつく）から
取締を嚴重にする。
全馬來亞は印度人の無智し英國人と全華僑とのボイコットの苦境の
中に日本人は在る。
氷雪の山野に戰ふ皇軍の辛勞を偲んで三度の飯は二度にしても堅忍
しろと小生は主張してる」

（鄕）

p-1-d

南情第134號

新嘉坡情報

一二、九、七

駐星獨逸領事聲明をなす。

「支那人記者團を招致して」

新嘉坡駐在獨逸領事は九月六日午後四時半當地支那新聞記者を招き獨逸政府の立場について次の如き聲明をなした。

一、外間に獨逸が日本に對し借款をなすと云ふやうなことに喧傳されてゐるが、この噂は何等根據がない。

二、獨逸新聞が反支那的言論をなしてゐるといふがこれも無稽に屬する。獨逸は支那の多年の友好國であり、今次の事變に對してゐる中立態度を保ち、和平解決の一日も速かならんことを願つてゐる、日獨協定は防共協定であつて政治的なものでなく、支那に干渉するやうなことはない。

新嘉坡情報　　　　　　　　　　　　　　　　　　一二、九、七

日支事變の餘波を喰つた煙草

「笑へないデマ」

全馬來亞に大きな販路を有つ英國煙草TORCHLIGHT（手電標）がそのロンドン本社GALLAHER LTD.より日本に對して數萬弗の義捐金を送つたとの「デマ」が各地に謠傳されて一勢に華僑のボイコットを喰らつた。ロンドン本社は狼狽の極八方デマの消火に努め、社長の名に於て聲明を發表し、各支那紙に無根の廣告を掲載し、一方海峽殖民地政府及稅關、中華總商會等に打電證明を爲し漸く一切が氷釋され、大打擊の一歩手前にて販銷の復活を見た。實に笑へない「デマ」であつた。會社は更らに新聞に事實を證明者に對して銀壹萬弗の懸賞を廣告をなして逆宣傳をなしつゝあり。

p-1-d

新嘉坡情報　一二、八、一二

新嘉坡空軍根據地建設費

新嘉坡空軍根據地建設豫算額はブリチッシュ・ワイヤレス報に依れば四、五〇〇、〇〇〇磅と發表された。内本年三月迄に既に一、三九四、〇〇〇磅が支出された、これ等の建設費は新西蘭、馬來亞聯邦國、柔佛王國等の據金によるものと稱せらる。ケランタン國サルタンは今同同國コータバルに一飛行場新設の爲め敷地並にその建設維持費を醵出された。新嘉坡島に於ける英國空軍の整備並に擴張工作は日を追ふて進渉補强されつゝある。三空軍飛行場の諸工事は何れも完成に近づきつゝある。卽ちセレタ飛行場兵舍及三棟の格納庫は完成し、士官々舍の竣工も近きにあり。島の西北テンガ飛行場は森林を切り拂ひ飛行場並に二棟の格納庫の完成をみた。セムバワ

ン空港は尙建設途上に在る、目下凹地の埋立、敷地の地均し等鋭意その竣工を急ぎつゝある。尙空軍司令部及官舍は山手タンギリンに建設すべき豫算が計上された。

其他テンガ空港に對し一、〇〇〇磅、セムパワン空港に對し七〇、〇〇〇磅、カラン民間空港隣接地たるタンヂヨンルーに空軍義勇兵々舍新設費として九、〇〇〇磅、馬來亞某地に空軍一個中隊の飛行場並に營舍建設費として七〇、〇〇〇磅をも併せて豫算が計上された。

歐洲－馬來亞空路の新發展

近來貨客の輸送に伴ひK・L・M社（Royal Dutch Air Lines.）は本年十月よりアムステルダム－バタビヤ空路を充實し、往復共毎週三回と爲す旨發表した。初發機歐洲より十月二日バタビヤより十月九日出航、爾後兩基點より毎週土曜、火曜、木曜（現在は土曜、水曜の

週二回）に出航することになる。これにより歐亞の一リンクたる新嘉坡は歐洲より週五回のメール（內蘭機三、英機二）を期待し得る事となり、歐亞の通信網は高度化され、通商貿易上多大の便益を享くる事となつた。現在九機使用されてゐる上に新鋭十一人乘ダグラスD・C・3機一臺が加へられ、十機となつて歐亞連絡に當ることになつた。

ANTI-JAPAN DEMONSTRATION

Pictures of the crowd who engaged in anti-Japanese demonstrations in Singapore yesterday. In the picture above an Indian is seen making a speech and (below) the procession on the march.—Tribune.

P-1-d

新嘉坡情報　一二、六月

蘭領東印度に於ける支那書籍の檢閲

「禁止書籍數百種に及ぶ」

最近支那の出版界は異常の發展（發達にあらず）し、在南華僑の讀熱も頗る旺盛となり、政治、經濟其他時事問題を扱ふ月刊雜誌は殆ど月二回の發行にて、其數非常に多い、蘭印政府は昨年來嚴重なる檢閲を行ひ、政治、思想、民族、軍事問題を掲載するも總て禁止（輸入販賣）され、學校用の教科書さへも檢閲を受ける有樣にて華僑の非難の聲が高い。

各學校長に對し政府より布告が發せられ、禁止書籍の販賣藏匿するも、罰金、禁錮、或は退去命令を受けるものとされる。

右禁止を受けたるものは、

如何に民族の動きに風靡してゐるかゞ了解される。

一、單行本

蔣介石言行集、王精衛言行錄、新智辭典、中國開明歷史講話（現代編）、中國的一日現階段文學論戰（林宗選著）、國際問題研究法（平心）、柳湜論文選（柳湜）、民族問題講話、中國中學生新文庫（沈伯經、陳議德合著）、街頭講話（柳湜）、政治常識講話（漢夫）、怎樣研究中國經濟（錢浚瑞）。

二、定期刊行物

新知識、東方文藝、自修大學、客觀半月刊、文學、生活教育、救亡情報、光明、兒童新聞、現實文學、大衆的報、文學青年、社會生活、國防文藝、大衆教育、建設雜誌、全民月刊、文學叢報、小譯叢、世界文化。

第三インターナショナルの支那人プロパカンダーの滑行と右の如き支那書籍に依り華僑を通じて、政治的に亦思想的に蘭印民族に影響することを極度に恐れる蘭印政府としては無理ない處置とは思は

一、單行本

蔣介石言行集、王精衞言行錄、新智辭典、中國開明歷史講話（現代編）、中國的一日、現階段文學論戰（林宗選著）、國際問題研究法（平心）、柳湜論文選（柳湜）、民族問題講話、中國學生新文庫（沈伯經、陳謙德合著）、街頭講話（柳湜）、政治常識講話（漢夫）、怎樣研究中國經濟（錢俊瑞）。

二、定期刊行物

新知識、東方文藝、自修大學、客觀半月刊、文學、生活教育、救亡情報、光明、兒童新聞、現實文學、大衆的報、文學青年、社會生活、國防文藝、大衆教育、建設雜誌、全民月刊、文學叢報、小説叢、世界文化。

第三インターナショナルの支那人プロパガンダーの潛行と右の如き支那書籍に依り華僑を通じて、政治的に思想的に蘭印民族に影響することを極度に恐れる蘭印政府としては無理ならぬ處置とは思

れるが、如何に民族の動きに風聲鶴涙してゐるかゞ了解される。

東亞經濟調査局　弘報課

P-1-d

新嘉坡情報

蘭領東印度の防備に關して　一二、六月

バタビヤよりの情報に據れば、日本朝野の南進政策の高調に風聲鶴唳たる蘭印は、南洋に於ける最近の著しき活動を續け來れる日本の南進に恐慌を起し、七千萬の大人口を擁する遠東の島國日本は、その人口の過剰と資源の貧困により、當然の歸結として新しき殖民地を求めつゝあるが、その日本が覗ふ最大のものは豐饒の天地蘭領東印度である、茲に於いて蘭領東印度人は日本の浸冠を防ぐ可く國防增强の必至を覺らねばならぬと叫んで蘭印五萬人の連署を得て、和蘭本國政府に對して蘭領殖民地の陸、海、空の防備增强の請願を上書したと傳へられる。

この蘭印人の上書に對して前任總督は次の如く述べた。

「蘭領東印度は今戒備中に在つて、將來充分なる増强防務がなされる事を自分も助言するであらう。全く蘭印現在の防備は薄弱なものである。特にその海、空二面の防備に關しては蘭印人の最も不安とするところであらう。」と

蘭印の現有海軍力は巡洋艦三隻、驅逐艦六隻、潛水艦十二隻、掃海艇四隻に過ぎない。然もその大部分は舊艦に屬するもの、僅かに五月初旬本國より廻航された巡洋艦ライト號一隻が現代裝備のものである。如斯き海軍力では決して蘭印の安全は保障されるものではない。防空に關しても海軍及空軍の裝備不完全である。僅かに海岸數ケ所に飛行場を有するも、飛行機が不足である。

茲に於いて蘭印軍當局はその擴大强化を計る爲めに、炸彈三千五百磅の積載力を有するドニュール式新鋭機十二基を來る十日頃迄に蘭印海軍に配置される豫定であると。

陸軍も既にその强化工作を進め、コロマテー式（？）爆撃機（積

載二千二百磅）四十機が米國より購入され近くバンドンの陸軍總司令部に集結され蘭印の重要都市スラバヤ－バタビヤ間（五百五十餘哩）の防備に就く筈であると。（米國人教官によつて訓練される）（

P-1-d

新嘉坡情報

蘭領東印度の空軍に關して、　一二、六、一六

シンガポール・エヤー・ポート開場式に飛來せる蘭印陸、海兩軍司令官は談話を發表した、

シンガポール市内カランに設置された民國飛行場（シンガポール・エヤー・ポートと命名された）の開場式參列の爲め蘭領東印度空軍より、海軍航空司令官デ・ブルーネ氏はフオツカー水上機三機を、陸軍航空司令官ヴアン・オーエン中佐はマルチン爆撃機三機を、それぞれ率ひて飛來した。

既に任を果してセレタ海軍根據地より瓜哇に歸還したが出發に際して兩司令は交々蘭印空軍强化の現狀を語つた。

海軍司令ブルーネ氏は

蘭印海軍航空部は空軍の近代化を實施中である、スラバヤの根據

地以外にバタビヤのタンジョン・プリオクに補助根據地があり、新フオッカー長距離偵察機及爆撃（發動機三基附）飛行艇六機は本年中に到着之の任務に就く筈である。更らに來年度十二機が製作を急がれてゐる、これは現有の四十機と同型のドルニエ・ウオルス式で時速九十哩内外である、今回帶同せるフオッカー丁四型機は二十四機は有し内十二機は新鋭のものである、この外にフオツカー水上機（發動機一基）二十四機が艦載用として就役してゐる。

和蘭の空軍施設が常に時代と共に進みつゝある理由は和蘭自國に飛行機製作場を持たず絶えず新鋭飛行機を世界の市場より購入してるからである」と。

オーエン中佐は語る

新嘉坡に今回飛來した三機のマルチン爆撃機よりも更らに新鋭な爆撃機が二十六機最近瓜哇に到着する、バンドン（陸軍航空

本部）には目下十三機であるが今年内に三十九機となる、外に十二臺の豫備機も置くことになつてゐる、新來の二十六機はマルチン式であるが、長距離用としてタンクを大きくし、發動機も強力のものを附けてある、時速二百三十哩、現在のよりも時速十五哩を增してゐる、このグレン・マルチン機の外に陸軍にはブリテツシ・アヴロ機、デ・ハビランド機等がある、バンドンの陸軍本部の外にバンドン北部三十哩のカーヂヤチに軍用飛行場がある、格納庫六、和蘭本國の空軍とは完全に獨立したものであるが、時と事態によつては直ちに補充を受くることが出來る。然し訓練やサービスは蘭印で行つてゐる」と。

新嘉坡情報　十二、九、二五

蘭領東印度の防備補強計畫案

「日支事變による？ー・ー」（九月二十二日發表）

和蘭の豫算聲明書中に「蘭領東印度海軍の新艦隊計畫の完了は巡洋艦三隻、驅逐艦十二隻、潜水艦十八隻、海軍航空機七十二臺の新建造追加を意味する」と述べてある。和蘭國防豫算は潜水艦六隻、商船誘導艦三隻、水雷敷設艦八隻、掃海艇十二隻、現在のデ、ルイター號よりも大型性能優秀なる新鋭巡洋艦一隻を建造して本國艦隊を完成することにあつたのである。

同時に發表された一九三八年度豫算は

歳出	七〇三、一九五、〇〇〇フロリン
歳入	六八九、九五〇、〇〇〇フロリン
差引不足	一三、二四五、〇〇〇フロリン

p1-a

和蘭國防相は「全般的に好轉をみせてゐるが、豫算が均衡する迄には相當の期間を要する」と述べてゐる、尚ウイルヘルミナ女皇は新議會の開院式の勅語に

各國間の關係緊張し、國際紛糾の危機に際し和蘭はその本國のみならず、屬領東印度に軍備補強を繼續する必要ある故に重要なる法案は遲延なく提出すべく、且恢復を促進すると政府が信じた手段は出來得る限り講ずるやうに」。

P-1-a

南洋情報。　　　　十月十五日

蘭領東印度海面に於ける邦人漁船への不法續く

九月三十日新嘉坡大城組所有漁船第七德榮丸が蘭印領海内に於て蘭印海軍機より機關銃の掃射をうけ死者二名負傷者二名を出した事件はその後の調査により同船が密輸、密漁等の犯罪行爲の全く無かつたことが判明し、在留二千の邦人漁夫にセンセーションを起してゐる眞中十月九日同領アナムバス群島ナトナ島附近に於て新嘉坡金城組所有發動機船泰進丸（二十噸六十馬力）が蘭印驅逐艦フロアース號によつて射撃され二名の負傷者を出したことが第七德榮丸事件の調査に來星した三好副領事によつて發表された。

德榮丸は蘭印沖公海に出漁中の僚船四隻の漁獲物受取りのため九月二十八日新嘉坡出帆同三十日現場に到着、積取作業に從事しつゝ、あつたもので、乗組員は船長大城善助以下六名、事件の詳報はされ

てゐない。

更らに新嘉坡を距る三十哩蘭領リオ群島プロビンタン附近に出漁中の新嘉坡大昌公司所有日本型漁船二隻及サンパン二隻が十月十二日蘭印官憲に抑留されたが乗組員十八名は假釋放され近く歸星、裁判はプロビンタンに於て開かれる筈、尙同公司所有海容丸（十五噸）は十月十日漁獲受取りのため右現場に向つたが、到着直後抑留を逃れて十月十三日歸還した。

和蘭商船隊の武裝化

蘭領東印度に對する狂燥

蘭印よりの情報によれば、和蘭政府は明年度海軍豫算に於て、商船の武裝經費として二百萬ギルダーをしたと、これは主として蘭領東印度關係航路に就く商船隊を武裝せしめることにある。而して商船自體の防衛の目的のみでなく、戰時補助巡洋艦としての重大な役割を課せんとするものである。その主張として傳へられるものは、既成商船にあつては國際情勢に卽應して二明の七糎半又は十糎半の單砲及機關銃を裝備し、現在建造中のものにあつては既にその目的の下に新鋭な裝備がなされつゝある。

尚その船體に對應して十五糎砲をも据置せんとするものである。この種補助巡洋艦は時速十五乃至十八浬の快速を有せしめ港灣及河口の防備任務に當ると共に普通商船の保護に任じ國防の目的を

遂行させるものである、勿論敵の攻撃に對しては微力ではあるが、潛水艦の搜索、擊沈に見るべき行動をなし得るものである。この補助巡洋艦の最大の目的は戰時に於ける敵商船の追擊抑留にある。これによつて敵國に對する經濟的打擊を誘致するにある、その効果は前歐洲大戰時に立證されてゐる。

商船武裝化の裝備の重要部分建造は和蘭本國及蘭領東印度の各汽船會社（東印度に營業範圍を持つ」の手によりてなされるものであらう」。

p-a-1

新嘉坡情報　　　　十月二十三日

蘭印機の第七徳榮丸射撃事件詳報

九月三十日、蘭領リオ群島附近航行中蘭印海軍機より不法なる射撃を受けたる邦船第七徳榮丸事件はその眞相調査にバタビヤより三好副領事現地に急行嚴密なる調査をなし、一旦バタビヤに引返し、蘭印官憲と交渉を開始せるも何等誠意ある回答に接せず蘭印當局の態度如何によりては本省に請訓を仰き本國政府との直接交渉に移さんとする模様である。

一、事件前の經過

母船第七徳榮丸は九月二十八日新嘉坡港を出帆し馬來半島の東南端に位置する燈臺附近に待合せる漁舟三隻を曳航して同燈臺より約七十海浬東南に位する公海中の暗礁（この暗礁は航海上危險なるため浮標にて一般航海者に標示さる "Admiral Stelungwef Reef"　このリー

ッ附近にて以前數回漁業に從事中警備船に見廻られしことあるも從來何等警告を受けたることなし）近海にて漁業の目的を以て航行せるも、北方よりの强風にて同礁附近の漁撈困難なるにより、コースを西方に取り新嘉坡に引返さんとする途中別記のペンゲラップ及デタップ島附近にて發動機に故障を生じたるを以て、仝二十九日の午後兩島の間に碇泊して機關を修理し出航せんとしたるも依然として機關の不調なるため、再び島岸近く投錨して夜間に修理を完了し、仝三十日午前七時頃新嘉坡向け發航せり、間もなく後方に曳航せる漁船のロープが外れたるため母船を後方に廻し漁船よりロープを取らんとなし居る際何れとも知れず飛行機が飛來せり。

二、事件の經過聽取書

昭和十二年十月十日

第七德榮丸殘留者代表

漁業責任者　金城金次郎

母船徳榮丸舵手　當間　蒲戸

漁夫　上原　長榮

右三名よりの聽取書

(一)九月三十日午前七時過ぎ蘭領リオウ群島中ペンゲラップ島とデタップ島との間を航行せる時一臺の飛行機が飛來し、上空を二三回旋回したる後合圖も無く飛去つてしまつた。

(一)其時母船は漁舟三隻を曳きつゝ西方へのコースを取つて航行して居た（漁舟の曳綱が母船より外れたのはこの時である。）

(一)それより約一時間餘り經過したる時即ち前記兩島より約七哩位西方の位置に達したる時再び飛行機が飛來し着水して發火信號をなせり。

この時當方は停船す、間もなく飛行機は上空を旋回して他に飛び去つたり。依つて當方は再び機關の運轉を命じ、同一方向へ航行を繼續せり。

㈠然るに七、八分後三度飛行機飛來着水して、殆んど母船と平行に走り乍ら左舷より發砲し母船の船首に命中せしも幸ひ乘組員には怪我は無し、母船を直ちに停船せしめたるところ、飛行機は又しても何れにか飛び去りたり。

㈠飛行機が見えなくなりたりし故本船は同一方向に航行を續けたるに五、六分後に四度飛行機飛來、右舷前方七、八十米に着水し、先方にて手を振り合圖せるも當方にては意味不明なるがため、當方より手を以て意味不明もつと接近せられ度きつもりにて信號せり。然るに先方より第二回目の發砲を受けたるに依つて當方停船せり

㈠停船したる時飛行機は手を振りたる後本船の斜後方に飛び去りたる故當方はエンヂンをかけ航行を續けたるに二、三分後に五度飛來し、本船の前方に着水と同時に發砲せり、この時四名の死傷者を出す（此の時大凡午前九時半頃なり）

らず依つて直ちに停船して死傷者を手當し居る間に軍艦が接近し來り、ランチを下して母船に來り、母船を曳航して軍艦に至り、死傷者を軍艦に收容す。當方よりは死傷者看護のため三名を軍艦へ派したるも、内一名を殘し二名は母船に還さる。

(一)然る後軍艦が先導になり、共にタンジョン、ピナンへ向け航行せるも途中にランチを下して母船はランチと同航せしめ軍艦は先航す。

(一)タンジョン、ピナン入港前約十海浬位の處に軍艦が出迎へ、軍艦が同航し來れる警備船に乘組漁夫全部を移乘せしめ、當方母船は更らに他のランチと同航、午後九時頃タンジョン、ピナンへ入港、上陸せしめられ、直ちに一同拘留所に留置せられたり。

十月一日午後七時頃、死者二名は當方漁夫五名立會の上火葬に附す。

十月二日午前十時頃遺骨を受取る。同日午後全員(二十七名)各別に審問を受けたる後、二名宛全員の寫眞撮影、身長測定、指紋を取

られたり。以上終りたる時、各自口述に相違無きや否を確め署名せしめらる、十月九日午後一時頃母船、漁舟及漁具の引渡しに署名せしめられて受取りたる上、午後五時半頃タンジョン、ピナンを出航し、十月十日午前二時頃新嘉坡カトン着、同所にて漁具を陸揚げした後、同午前三時頃上陸歸宅す。

（備考）

タンジョン、ピナン出航に際し蘭印官憲より「無事新嘉坡迄歸港し得るや否や」との質問ありたるに付き、船長不在（死亡）のため幾分不安の旨返答をなしたるためか、同港より新嘉坡沖迄蘭印警備船が同航し來つた。

三、十月二日以後の蘭印官憲の取調内容

(一)金城金次郎（漁場に於ける組の代表者）に對する問答―漁舟其他に關するもの。

問　蘭領に於て何回警備船に出會せしや。

答　二回會ひたることあり。

問　ペンゲラツプ及デタツプ島に碇泊せしや

答　島名は不明なるが投錨はした。

問　何のために碇泊せしや

答　機關の故障のために錨を下した。

問　其地點に於て漁業せしや

答　同地點で漁業は一切やつて居ない。

問　何處から來たか。

答　新嘉坡を出港してから馬來亞半島の東南端の燈台附近に待合せ居りたる漁舟と共に同燈台の東南方約七十海浬の海中にある暗礁か "Admiral Stelungwerf Reef" 附近に向はんとする途中風が强くなり、右リーフにて漁業困難なるを知りたるため西方のコースにより新嘉坡へ引返す途中機關に故障を起したるにより島の間に投錨せり。

問　飛行機の飛來した時どうして居たか。

答　前晩に機關の修理を終り、その朝新嘉坡へ向けて發航して間もない時であつた。

問　飛行機が最初に見えた時島から何海浬位離れて居た。

答　一海浬位離れて居た。

問　飛行機からの信號は判らなかつたか。

答　初めは知らなかつた。

問　何回發砲したか。

答　四回發砲せり。

問　軍艦は最初見えなかつた。

答　見えなかつた。

問　何時軍艦が來たか。

答　怪我人を手當せる時に軍艦が來てランチを卸して近づき、怪我人を軍艦に收容した。

問　出生地は何處か、又年齢は幾歳なりや。

答　沖繩縣生れにして二十八歳なり。

問　妻子ありや

答　妻あるも子供なし。

問　妻は何處に在住するか。

答　沖繩に在住す。

問　兩親在世するや。

答　實父母共に死亡し繼母生存す。

問　怪我人の出來た時に腹部に日本の國旗を卷いて居た者があるが見たか。

答　自分は知らなかつた。

（備考ー右の問に對しては上地國彦が名乘り出て國旗は粗末になるといかぬ故自分の腹に卷いて居たと、回答せる由）

問　何回目の發砲によつて漁舟より母船に乗り移つたか。

答　初め漁舟に乗り居たるも第二回目の發砲を受けた時母船へ乗り移つた。

問　何故母船へ移つたか。

答　恐ろしかつたからである。

(二)當山蒲戸(母船舵手)に對する第一回審問、母船に關するもの。

問　ペンゲラツブ及デタツブ島に碇泊せしや。

答　島名不明なるが機關故障のために投錨せり。

問　島より何海浬離れて碇泊せしや。

答　約二〇〇米離れて投錨せり。

問　それより如何にせしや。

答　碇泊中に機關を修理して新嘉坡に向け一旦航走した。

問　其後は。

答　機關の不調により再び近くの島蔭にかゝつた。

問　其時間は何の位なるや。

答　航走せる時間は十分乃至十五分位なり。其夜は投錨のまゝ機關を修理して翌日午前七時頃新嘉坡に向け出航した。少時航走したる時、曳航せる漁舟の曳綱が母船から外れたので母船を後方へ迂回せしめ、再び漁舟より曳綱を取つた。此時最初の飛行機が來た。

(三)當山蒲戸に對する第二回審問、一般事項に關するもの。

問　性名は何と云ふか、年齢は何歳なりや。

答　當山蒲戸、年は二十四歳なり。

問　出生地は何處か。

答　沖繩縣なり。

問　父母在世なるや。

答　父死亡、母生存す。

問　職業は何か。

答　母船の舵手なり。

問　舵手になつてから長くなるか。

答　約一ヶ月位なり。

問　海圖の見方を知つて居るか。

答　詳しいことは知らぬ。

問　一ヶ月以前には何をして居りたるや。

答　油差し又は漁夫をやつて居た。

問　新嘉坡に長く在住するや。

答　七年在留す。

問　七年にもなるのに飛行機よりの信號を知らぬや。

答　斯かる教育を受けておらぬ故知らぬ。

問　飛行機が來た時國旗を立てゝ居たか。

答　國旗は立てゝ居なかつた

問　國旗は持つてをらざりしや

答　持つて居た。

問　持つて居るのに何故立てぬか。

答　國旗は船長が保管して居る故自分は知らぬ。

問　船長は誰か。

答　大城龜一なるが同人事故の爲今回は上原龜（死亡）が臨時に船長として出帆せり。

問　何時も國旗は立てゝ居らぬか。

答　平常は立てゝ居らぬが港の出入の時に丈け立てゝ居た。

問　何日に新嘉坡を出帆せしや。

答　九月二十八日に新嘉坡を出帆せり。

問　怪我人のあつた時國旗を腹に卷いた者が居たが見たか。

（備考この問に對しては前記上地國彦の答がこゝにもなされた。）

問　母船は普通何海浬位の速力が出るや。

答　約七海浬位なり。

問　漁舟三隻を曳いた時の速力は何海浬位か。

答　約五海浬位なり。

問　全速力にて走る時幾海浬位なりや。

答　全速力にて走りたること無く不明なり。

四、本事件に於て雙方の重大な爭點

一、蘭印飛行機側は幾度か停止の信號をなしたるも停止せざるにより機關銃を撃つたと稱する。

二、漁船側は最初の「止まれ」と言ふ信號は判らなかつた。然し發砲してからは停止したではないか。度々同じ様な事を繰返し遂に死傷者迄出した。それは停止すれば飛行機は何事も告げずに飛び去るので、それで事濟みになつたと思つて又航行を初めたのである。「と漁

夫側の言分にして、逃げる意志で航行したのではない。

三、母船は當時三隻の漁舟を後方に曳航して居るので機關室に命じてその前進を停止せしめたけれども、曳航中の漁舟の後突の恐れと、曳綱がたるみてプロペラーに巻付く懸念がある故、斯る場合後退の信號は出來ぬ。

それで船は尙惰力によりて緩速ながら前進を續けしものならん。夫を飛行機の方では停止しなかつたではないかと稱し居るものであらう。然し如何に漁夫と雖も到底匹敵し難いその速力と武器を有する飛行機の追擊より逃れ得ざる事位は充分~~ぬ~~承知して居る故、常識を以て判斷しても逃れんが爲め停止しなかつたとは考へる餘地無きことは明白である。

「漁船を見てさへ日本の策動を妄想する蘭印官憲の無謀、然し英國の腹の中も最近蘭印官憲と同じ様な妄想を抱えてゐること瞭かだ」

（郷）

新嘉坡情報　十二、十三、二十

蘭領東印度の防備問題に關して
「ジャワ・ボーデ紙の所論」

和蘭本國に於いてクレーネ博士は東印度防備に關する一論說を祖國倶樂部機關誌に掲載し、第三國の侵略に際し、東印度の防備に對する英國の援助による樂觀論をなした。これに對して最近アメリカ、マニラ、香港の視察旅行より歸爪せるジャワ・ボーデ紙の主筆セント・グラーフ氏は同紙上に於いて、クレーネ博士の不認識を指摘し次の如き反駁論を掲載した。

ムツソリニがアビシニアを強奪し、近くは支那に對して取つた日本の態度、之等の實例に依つて明かに示されたやうに、國際聯盟の信威は今や全く地に陷ちたと云ふべきであるが、クレーネ氏は此の問題に對して充分な認識を得てゐないのではなからうか？